

教団新報

定 価 1 部 144 円 (本 体 133 円 千 共 206 円)
予 約 購 読 料 1 年 分 千 共 5,150 円
紙 代 の み 3,600 円
振 替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日 本 基 督 教 団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
一時移転先 169-0072 東京都新宿区大久保 1-7-18
電話 03(3202)0546、FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 長 崎 哲 夫
編集主筆 渡 邊 義 彦
印刷所 株式会社きかんし



2016 年新年礼拝
越谷教会 (関東教区埼玉地区)

春 メッセージ

神の栄光を見た

ヨハネによる福音書 1 章 14 ～ 18 節



石橋 秀雄

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。ヨハネは、この方について証しをし、声を張り上げて言った。「わたしの後から来られる方は、わたしより優れている。わたしよりも先におられたからである」とわたしは言ったのは、この方のごとくである。「わたしはちば皆、この方の満ちあふれる豊かさの中から、恵みの上に、更に恵みを受けた。律法はモーセを通して与えられたが、恵みと真理はイエス・キリストを通して現れたからである。いまだかつて、神を見た者はいない。父のふとこに在る独り子である神、この方が神を示されたのである。」

《ヨハネによる福音書 1 章 14 ～ 18 節》

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた

「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た」

「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た」(14 節)との御言葉が、新しい年の最初の越谷教会の

「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た」と驚

「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た」と驚

死に向かう信仰者の輝きに「神の栄光を見た」

1995 年 2 月 26 日の越谷教会の週報を完成させて佐々木純子(すみこ)さんは天に召された。この週報を作る作業を喜び楽しみながら召された信仰者の中に「神の栄光を見た」。週報当番を担当する妻のために夫、義夫さんはワープロをプレゼントした。このことを大変喜びながら純子さんは週報の当番を続けた。

純子さんは血管外皮腫という大病にかかってしまった。血管の外の皮に腫瘍が出来、そのままですと命が危ない。腫瘍を血管から削ぎ落とす手術は大変辛く 6 ヶ月入院を必要とした。削ぎ落としたと思ったら、また出来る。そして辛い手術を繰り返していたが、純子さんは神様に全てを委ねる決心をした。医師は「2

この原稿を書いている時、純子さんの夫、義夫さんが召されたとの知らせを受けた。彼は妻にプレゼントしたワープロを死の時まで使い続け、そして、妻の聖書を用い続けていた。彼は妻の死をきつかけに、妻との深いつながりの中で生きてきた。

壁が立ちはだかるとしても

夫は夕食後、ただちに部屋に閉じこもり 2 時間、正座して神仏を拝んでいた。どんなに遅く帰っても必ず 2 時間、神仏を拝んだ。

義夫さんは旧約聖書が大嫌い、妻の受洗に大反対をし、家庭内での宗教的対立は深刻なものであった。神仏のご加護で今日がある

生前の純子さんの痛みは夫との宗教の壁であった。

そんな身体で週報当番の奉仕をしていた。その週の火曜日に週報の原稿を届けた。越谷教会の週報は三つ折の週報だ。水曜日に 1 ページ目を 2 時間かけてワープロを打ち、木曜日に同じようにして 2 ページ目を打った。木曜日の夜、妻と共に佐々木宅を訪問した。純子さんは大変明るかった。そして研ぎ澄ま

病氣は回復しても常に再発に怯え、死に怯え、神仏を拝まざるを得ない生活をしてた。

ところが、義夫さんは妻が「息が出来るから感謝」と言っていたことに衝撃を覚えた。死を見つめて明るく、喜んで生きる妻、そして、病氣の再発を恐れ、死を見つめて怯える自分、この死というところにおい

た乳飲み子」であった。誰も神の輝きをそこに見ることは出来ない。しかし、羊飼いたちは「貧しくなられた神」を見、「貧しい自分たちのただ中に宿る神」を見、そこに神の業を知り喜びに溢れている。彼らは、「神の栄光をそこに見た」のだ。

主はトマスに「生々しい傷跡を示された。トマスはその傷を見て「わたしの主よ。わたしの神よ」と、主イエスにひれ伏し拝む。「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。罪人と同

「救急車はいいから牧師を呼んで」と言ったそう。ただわたしは心臓マッサージと人口呼吸をして救急車を呼んだ。病院でその日の夕方、家族に見守られて召された。家族のためにはそれでよかったと思っ

最後の 1 週間は、純子さんの人生で最も輝いた時であったと受け止めている。

この夫婦の間の壁にも主が宿り、この壁において「神の栄光を見た」と言える信仰者の姿を知り、教会員たちは感動し励まされている。

新しい年の教会の歩み、信徒の前に大きな壁が立ち、はだかるかもしれない。しかし、そこで「神の栄光を見た」と告白しえる教会の歩み、信仰者の歩みをなすことができるのだ。

(第 39 総会期教団総会議長
・越谷教会牧師)

東日本大震災 被災地のクリスマス

小学生のための支援活動

エマオ石巻

12月24日、25日、いしのまきっこ広場のクリスマス会を開きました。いしのまきっこ広場は、エマオ石巻近隣の被災した小学生のために遊び場をつくろうと始められた支援活動です。今年度に入ってから小学校の長期休みに開いていました。今回は新たな試みとして、震災直後から高校生ボランティアチームを派遣し、まきっこにも関わり続けている明治学院東村山高校のOB3名が中心となり、企画から当日の進行まで行ってもらいました。

24日は、午前中冬休みの宿題をする時間を持ち、お昼には子どもたちがサンドイッチの具(タマゴ、ツナ、ハムチースきゅうり)を作り、デザートでプチケーキにデコレーションをして皆で美味しく食しました。午後は科学実験でバスボム(入浴剤)を作りました。重曹、クエン酸、塩、食紅に水を少し加え混ぜたものを様々な型に入れて固めました。まず作り方を教えてもらい、それから自分たちで実際に作りましたが、皆真剣な表情でした。帰際にはボランティアの方が用意してくれたクリスマスツリーにかかったプレゼントを貰いました。この日は21名の参加があり、ボランティアワーカーは3名でした。

25日は、午前中クリスマスカード作りをしました。様々な紙を切り貼り、切り抜きてカードを作り、そこに家族へのメッセージを書き込みました。お昼から

明治学院東村山高校の現役生チームが合流し、皆で手巻き寿司を作って食べました。午後はチョコレートフォンデュを、板チョコを削って溶かし、果物をむいたり切ったりする作業から子どもたちにやってもらいました。たくさん用意した材料はあっという間になくなりました。この日は10名の参加があり、ボランティアワーカーは10名でした。震災から5年近くが経ち、子ども支援に特化した団体が定着してきたり子ど

もたちが道ばたで遊ぶ姿も戻ってきたりと、遊び場が徐々に増えつつあるのは喜ばしいことです。それでも長期休みなどに子どもたちを安心して預けられる場所があることは親御さんたちもありがたいようです。私たちの主イエス・キリストが社会のなかで小さくされた者のところに生まれた意味を改めて思い巡らすクリスマスとなりました。(深谷有基報)

エマオ石巻専従者

仮設住宅、最後のクリスマス

エマオ仙台

エマオ仙台では2つのクリスマスを祝いました。まず12月23日に、七郷中央、荒井2号、荒井7号公園仮設住宅合同クリスマス会を実施し、26名の方が参加しました。

仙台では2016年春を仮設の「退去期限」としており、すでに多くの方が仮設を出ています。仮設集会所でのクリスマス会もこれで最後になる中で、今も仮設に残っている方はもちろん、復興住宅や新しい場所へと移った方も集まりました。

嬉しかったのは、エマオ石巻がお茶っこに通っている仮設から料理人の方が仙台まで来て、マクロ寿司を振る舞ってくれたことです。しかもそのマクロは、仮設自治会長が仕入れて来てくれたものでした。

出席者から「1分スピーチ」をしてもらいました。もう一つのクリスマスは、12月25日若林区笹屋敷公会堂を借りて行われた、まきっこクラブ「クリスマスパーティー」です。18名の子どもたちが参加し、仮設に住んでいる子も、津波被災地である笹屋敷地区に帰って来ている子も、他の

1・23のクリスマスを胸に、「仮設の最後まで」、そして「まきっこクラブ」を大切にしていきたいと祈っています。

(佐藤真史報)

エマオ仙台専従者

仮設住宅から復興住宅へ

ハートフル釜石

被災後5回目のクリスマスを迎えました。震災から4年9か月を経て被災地の情報がメディアに取り上げられることも少なくなり、遠方からでは復興が進んでいるものと思われがちですが、現実の被災地はまだまだの状況を示しています。

釜石ではいまだに64団地4500名の方が仮設住宅住まいを余儀なくされています。徐々にはありますが、復興住宅の建設が進み、現在3つの復興住宅が完成し新しい生活を始めた方がおり、2016年秋には市中心部にたくさんさんの復興住宅が完成予定で、入居を心待ちにしている方が数多くいます。

一方、自宅再建の方々は、土地の嵩上げ工事が予定通り進まず、待ちぼうけの状況の中で仮設集約での転居を強いられ、不安の中に過している方がたくさんいます。仮設住宅からの転居者が少しずつ出てきて寂しさを募らすことになっています。

そのような中で、今年は13ヶ所の仮設住宅と2ヶ所の復興住宅でクリスマス会を行いました。日本基督教団が活動支援母体であることを皆さんに直接伝える唯一の機会である降誕祭で、神様の恵みが夫々の方にあるようにと、祈りました。

集まった方々からは「本当に嬉しい」との声を聞くことができ、活動が続けてきた喜びを感じるのと時でありました。

仮設住宅での生活の終わりが少しずつ見えてきています。



上＝24日の集合写真、下＝25日はクリスマスカード作り

ですが、問題は時間とともに増えてきています。支援センターの働きがますます

用いられて行きますように、皆様の祈り、支えをこれからも宜しくお願い致します。

ます。

(平田信之報)



上＝甲子第3仮設住宅のクリスマス会
下＝平田復興住宅のクリスマス会、石巻協と協力開催



上＝クリスマス会の様子
下＝まきっこクラブ、クリスマスケーキを製作中

教師養成委託 6 神学校を問安

(大友英樹報)

諸事業の具体的立案・準備を開始

(岡村 恒報)

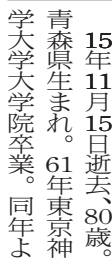
第 17 回 歴史共同研究委員会

(佐藤飛文報)

教師転入・宣教師受け入れの課題を協議

(道家紀一報)

柳谷 明氏（隠退教師）



新報 4832・33号、3
面「事務局報」欄、浪岡伝道
所住所番地「61-1」を「64
-1」に、お詫びして訂正い
たします。

れ、和解させて頂いた罪人として、教会人として真摯に、焦らず、右往左往せずに、歩みを進めたいと思っております。そのためには、全国的支えと理解が不可欠です。全国の諸教会に新年の恵みが豊かにあるよう祈ります。（社会委員長

いる。

しかし、何よりも教団の教会が献身者を生み出す力を与えられることが求められている。また伝道者養成とともに、教師の継続教育についても、各神学校での取り組みがなされているのが、教団として教師の継続教育が課題であると感じられた。

また、神学校から出された事柄として、各神学校が

開始

は「基本方針」に基づいて、参加者が信仰の土台を確認し、それぞれの中で新たな宗教改革が起こることを期待しつつ行うこと、合わせて、キリスト者として伝道献身の思いが新しく与えられるよう準備することを確認した。実行委員会招集者に増田将平牧師（中高校生・青年大会2014）・実行委員長、青山教会）を選任し、委員には教育委員会（2名）、伝道委員会（1名）、伝道推進室（1名）からそれぞれ推薦を受けた者を充てることとした。

中高生大会は2017年8月中旬に2泊3日の日程で、青年大会は2017年秋に1日のプログラムで実行する方向で準備を開始する。

今後、諸教会・諸団体が、行う宗教改革記念行事に積極的に参加、協力するとともに、教会主催の諸行事に他教団、他教派の諸教会を

た。

教団の宣教師として受け入れられるかどうかは、宣教師人事委員会が扱うが、転入審査のようなことはしてい

消息

柳谷 明氏（隠退教師）



15年11月15日逝去、80歳。
青森県生まれ。61年東京神学大学大学院卒業。同年よ

度（教育期間）などを設けるなど前向きの方角も協議されている。

（道家紀一報）

り山形六日町、大船渡、八戸崎崎、山形六日町教会を経て、11年に隠退。遺族は妻・柳谷迪子さん。

お詫び・訂正

新報4832・33号、3面「事務局報欄、浪岡伝道所住所番地「61-1」を「64-1」に、お詫びして訂正いたします。



↑大殿小学校
に保管され
ている青い
目の人形

ガートルート・サラ・ビゲロー
(Gertrude Sara Bigelow) と
山本つち

ガートルート・サラ・ビゲローは、1860 年 5 月 17 日、ニューヨーク州に生まれた。
1883 年、ミス・ビゲローは、ハミルトン・レディース・セミナリーを卒業後、地元の学校に勤務していた。その頃、帰国した宣教師が日本伝道について話した後、「だれかこの中で東洋にキリスト教を伝えるために献身する方はいないでしょうか」と呼びかけた。この呼びかけに応えたのが若き日のミス・ビゲローである。日本に赴任するために 1886 年 9 月、

ニューヨーク州の試験を受け、中等学校教師の免許状を取得。1887 (明治 20) 年、来日。26 歳であった。1888 年、長老教会教育宣教師として新栄女学校に着任した。新栄女学校は、築地居留地六番地に B 六番女学校、その後、居留地 42 番に移転し新栄女学校、その後、櫻井女学校と合併して女子学院として開校する。ミス・ビゲローは着任の 1 年後、新栄女学校長に昇任。1890 年に辞任し、北陸女学校に転任した。北陸女学校の草創期に金沢で 2

宣教師からの声 番外編

ガートルート・サラ・ビゲロー

豊田 滋
(梅光学院大学・学院資料室)

年間勤務、その後、山口市の光城女学校に着任した。

光城女学院は、1891 年、服部章蔵によって、山口市道場門前 (当時は山口町) の善福寺に山口英和女学校として開校。1892 年、山口市後河原に移転し、光城女学院と改称。ミス・ビゲローは、この時期に着任した。服部章蔵院長、外人教師 1 名、日本人教師 3 名、生徒 20 名ほどの学校であった。ミス・ビゲローは教諭として、英語、倫理、唱歌、体操を担当した。1893 年 7 月～1894 年に一時帰国。デトロイトで開かれた会議に出席した。

1897 年には、妹フローレンス・ビゲローも光城女学院に着任した。1899 年、39 才で第 2 代院長に昇進した。

1899 年 4 月に長府の町から山口まで蒸気船と馬車を乗り継いで 12 才の少女が入学。この少女こそ、ミス・ビゲローが薫陶し彼女の意志をついでキリスト教教育のために貢献した、後の女子学院院长 (1947 年～1966 年) 山本つち (旧姓弘中) であった。山本つちは、『パレアナ』(E.H.Porter 著) の訳者としても知られる。彼女の回想によると、ミス・ビゲローは、和裁、洋裁、刺繍までも教え、ペーオルガンを校庭に持ち出しての体操やダンベルを使用した体操も指導した。また、愛馬カイザー号を駆って乗馬も楽しんだ。快活な女性であったと思われる。1909 年には、米国の長老派事務局発行の雑誌『The Assembly Herald』に『Japan's Daughters and Missionary Teacher』を寄稿している。1904 年に一時帰国。

その後、光城女学院は、長崎の梅香崎女学校との合同校として、1914 (大正 3) 年に梅光女学院として下関に開校。院長には梅香崎女学校の廣津藤吉、ミス・ビゲローは聖書、

英語を担当した。花壇を整え校内を美化することに心を配った。

1919 年には教育功労賞を山口県から受け、1921 年には勤続 30 年の祝賀が行われた。

1930 (昭和 5) 年、日本在留 45 年間、光城・梅光 38 年間の長きにわたる奉仕を終え、帰米の途についた。この時 71 才。帰米する折、梅光女学院に 200 冊の書物と、校庭後ろの山上に祈祷黙想の場所として煉瓦造りの頑丈なあづまやを建築し寄贈した。『祈りの家』である。1941 年 11 月 1 日、カリフォルニア州ロサンゼルスにて死去。81 才であった。

ミス・ビゲローについて、忘れがたい逸話は「青い目の人形」である。1927 年、アメリカから 12,739 体の「青い目の人形」が届いた。伝道のために日本に居た S.L. ギュリックの働きより、平和のために日本に贈られた人形である。ミス・ビゲローは、山口市の公会堂に小学生の代表を集めて人形を贈った。その中の 1 体は、夏物のドレスには胸に刺繍があり、冬のコートのポケットには、米国の少女の手紙が入っていた。現在、山口市の大殿小学校に、ローズ・メアリーという冬のコートにポケットがある「青い目の人形」が保管されている。平和の願いと祈りは、時代と国境を越えて生き続けている。

梅光学院は、2014 年に下関開学 100 周年を迎えた。ミス・ビゲローの愛弟子・山本つちの夫、山本五郎は、戦時下において理事長を務め、困難な時代を支えた。これもミス・ビゲローの影響と云われる。彼女の精神である「平和への願いと祈り」は、今も梅光学院に引き継がれている。

記録出典：梅光女学院遠望 (梅光女学院同窓会編 1987 年) ほか
(Kyodan Newsletter より)

日本基督教団事務局職員募集

- ◎人 員 1 名
- ◎職 種 事務一般 (財務)
- ◎採 用 採用決定次第随時
- ◎資 格 教団信徒、年齢 30 歳前後。
経理事務経験、日商簿記 3 級以上の資格所有が望ましい。PC スキル (Microsoft Word、Excel) 要。
- ◎待 遇 教団規定による
- ◎応 募 履歴書 (写真付き) を郵送にて、2016 年 2 月 29 日 (月) 必着。
- ◎試 験 書類選考の後、
2016 年 3 月 4 日 (金)

日本基督教団事務局総務部 (担当：道家紀一)
〒169-0072 東京都新宿区大久保 1-7-18 アサヒ
ニューシティビル 4F (TEL 03-3202-0541、
Fax03-3207-3918、URL.http://uccj.org)

《伝道推進室》よりお知らせ 「北陸大会」

- ◎日 時 2016 年 2 月 21 日 (日)
14:30 ～ 17:00
- ◎会 場 金沢教会 (石川県金沢市)
- ◎講 演 「創造力と想像力に満ちて出て行く伝道」
- ◎講 師 加藤常昭 (神学者、隠退教師)

呉西伝道圏「伝道集会」

- ◎日 時 2016 年 2 月 21 日 (日)
13:30 ～ 15:00
 - ◎会 場 出町教会 (富山県砺波市)
 - ◎講 演 「どんな時でも一神の右の手に支えられて」
 - ◎講 師 石橋秀雄 (伝道推進室室長)
- ＊プログラム詳細、教団 HP、uccj.org で。

晩秋の或る主日夕、東京・永福町に幼稚園の持統を断念して、その敷地を売却し、瀟洒な会堂・集会室・牧師館のみを新築をした永福町教会の献堂式に出席した。教会は、地域に次第に少数化する幼児の実情と教会幼稚園としての経費に徒ならぬもの有り」と判断して廃園の決断をしたのだ。ところがそれに異を唱える保護者と卒園者ら 3000 余名の人々の猛烈な反対署名運動が起こった。それらの動きに呼応して教会を離れた信徒も数名はいた。教会に戦後都内から現在地に移転した経緯があり、

代の牧師・園長は相当の努力をもつて必要な教育を些かも恥じることなく行なった。わたしは、幼稚園付教会に赴任したことはないが、それらの報告を聞きながら、思う

教会一本での戦い

それは押し並べて地域に子どもたちが大勢いてのこと。牧師も牧師だけでは、園長の名をもってする影響力や尊敬を集めることは不可能だった。今や教会は、教会一本で人々の心にどんな痕跡を残すのか、新たな戦いが始まった。
(教団総幹事 長崎哲夫)

清水さんは、日本基督教団のいくつかの教会に育てられた。母の胎内にいるときから弘前南教会に礼拝出席し、高校 1 年生から現在に至るまで 5 つの教会で奏楽奉仕を務めている。

大学入学後、長野本郷教会に礼拝出席し、大学 4 年生のイースターに洗礼を受けた。受洗にあたり、聖書のことをもっと知らなければいけないと思ったが、牧師先生から『ここからがスタートだ』と言われて、これで行きたい、一生、神様について行きたい、社会に出る前の不安の中、守っていたのだと思っていた」と語る。

その後、東京の会社に就職すると共に野方町教会に転入会し、4 年間、楽しい青年会時代を過ごした。

2000 年 3 月、牧師の司式により、大学で出会った青年との結婚式を挙げた。

結婚後は、新居近くの滝野川教会に転入会、2005 年の春から聖学院大学キリスト教センターに就職した。主に用いている感謝と共に、キリスト者としての生き様を学生たちに見られている責任は大きい。キリスト教センターが証しとなっており、若き魂が教会に導かれてほしい」と語る。

次男の出産にあたって、人生で最も大きな試練の出来事に直面した。次男は生後 12 日目に召された。「出産の翌日に牧師先生



キリストに結ばれて



青森県出身、滝野川教会員、聖学院大学キリスト教センター職員。